

## 宮澤浩一先生 略歴

### 略歴

- |           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 一九三〇年 五月  | 東京に生まれる                          |
| 一九四八年 三月  | 旧制鎌倉中学校修業                        |
| 一九四八年 四月  | 慶應義塾大学法学部予科入学                    |
| 一九四九年 四月  | 慶應義塾大学法学部法律学科編入学                 |
| 一九五三年 三月  | 慶應義塾大学法学部法律学科卒業                  |
| 一九五三年 四月  | 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程民事法学専攻入学       |
| 一九五五年 三月  | 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程民事法学専攻修了       |
| 一九五五年 四月  | 慶應義塾大学法学部助手                      |
| 一九五七年 九月  | ハイデルベルヒ大学（西ドイツ）留学（五九年三月まで）       |
| 一九六〇年 一〇月 | 慶應義塾大学法学部助教授                     |
| 一九六四年 夏学期 | ザール大学（西ドイツ）客員教授                  |
| 一九六六年 一月  | 慶應義塾大学法学部より法学博士（学位論文「被害者学の基礎理論」） |
| 一九六六年 四月  | 慶應義塾大学法学部教授                      |
| 一九七五年 冬学期 | ミュンスター大学（西ドイツ）客員教授               |
| 一九七七年     | テュービンゲン大学（西ドイツ）から名誉博士号授与         |

一九八〇年冬学期  
 一九八六年冬学期  
 一九八八年一〇月  
 一九八九年二月  
 一九九五年一〇月  
 一九九六年三月  
 一九九七年四月  
 二〇〇〇年三月  
 二〇一〇年七月二三日  
 逝去

ケルン大学(西ドイツ)客員教授  
 ゲッティンゲン大学(西ドイツ)客員教授  
 ザールブリュッケン大学(西ドイツ)から名誉博士号授与  
 西ドイツ政府よりドイツ連邦共和国一等功労十字章授与  
 ベッカーリーア・メダル金賞受賞  
 慶應義塾大学名誉教授  
 中央大学総合政策学部教授  
 瀬戸山賞受賞

# 学会活動・社会的活動

世界被害者学会会長  
 一九八八年 〃 一九九一年  
 世界被害者学会副会長  
 一九七九年 〃 一九八八年  
 一九九一年 〃 一九九七年  
 国際犯罪学会副会長  
 一九八八年 〃 一九九三年  
 日本刑法学会理事  
 一九六七年一〇月 〃 一九九四年五月  
 日本刑法学会監事  
 一九九四年五月 〃 一九九七年五月  
 日本被害者学会理事長  
 一九九〇年二月 〃 二〇〇一年六月  
 法制審議会刑事法特別部会幹事  
 一九六五年九月 〃 一九七三年九月  
 法制審議会刑事法部会委員  
 一九八六年一〇月 〃 一九九八年七月  
 法制審議会少年法部会幹事  
 一九七一年九月 〃 一九八二年三月

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 法制審議会少年法部会委員        | 一九八二年四月～一九九〇年三月   |
| 法制審議会監獄法部会委員        | 一九七六年四月～一九八〇年一月   |
| 司法試験二次試験考查委員（刑事政策）  | 一九七五年　　～一九八四年     |
| 矯正保護審議会委員           | 一九八三年一〇月～一九九五年一〇月 |
| 国家公安委員会犯罪被害給付専門委員   | 一九八一年一月～二〇〇六年十二月  |
| 文部省法学政治学視学委員        | 一九八九年三月～一九九七年三月   |
| 内閣府犯罪被害者等施策推進会議専門委員 | 二〇〇五年四月～二〇〇七年三月   |
| 内閣府犯罪被害者等基本計画検討会座長  | 二〇〇五年四月～二〇〇五年一月   |
| 財団法人日本刑事政策研究会評議員    | 一九七九年四月～一九九三年五月   |
| 財団法人日本刑事政策研究会理事     | 一九九三年五月～二〇〇七年一月   |
| 財団法人アジア刑政財団理事       | 一九八九年三月～二〇〇六年九月   |

## 宮澤浩一先生 主要業績

### 著書・編著

- G・ラートブルフ著・共訳『一法律家の生涯 P・J・アンゼルム・フォイエエルバッハ伝 ラートブルフ著作集7』  
東京大学出版会 昭和三八年
- 『犯罪学二五講』  
慶應通信 昭和四一年
- 『被害者学の基礎理論』  
世界書院 昭和四一年
- 『被害者学』  
紀伊國屋新書 昭和四二年
- 編著『世界諸邦少年法制の動向』  
鳳舎 昭和四三年
- アルトゥール・カウフマン著・共訳編『現代法哲学の諸問題』  
慶應義塾大学法学研究会 昭和四三年
- 編著『犯罪と被害者』  
成文堂 昭和四五年
- 共編『刑事政策講座 第一卷 総論』  
成文堂 昭和四六年
- 共編『犯罪学リーディングス』  
慶應通信 昭和四六年
- 編著『犯罪と被害者 第二卷』  
成文堂 昭和四七年
- 編著『少年法改正』  
慶應通信 昭和四七年
- 共編『性と法律 性表現の自由と限界』  
成文堂 昭和四七年
- A・カウフマン著・訳『現代法哲学の目的』  
慶應義塾大学 昭和四七年

|                                          |      |       |
|------------------------------------------|------|-------|
| 『刑法の思考と論理 刑事法論集第一巻』                      | 成文堂  | 昭和五〇年 |
| 『現代社会相と内外刑法思潮 刑事法論集第二巻』                  | 成文堂  | 昭和五一年 |
| アルトゥール・カウフマン編・共訳編『行刑改革の諸問題』              | 成文堂  | 昭和五一年 |
| 『外国刑事法文献集成1 ゲリヒツザール』                     | 成文堂  | 昭和五一年 |
| 『刑事政策の源流と潮流 刑事法論集第三巻』                    | 成文堂  | 昭和五二年 |
| 『刑事法学の諸問題 刑事法論集第五巻』                      | 成文堂  | 昭和五三年 |
| 編『西ドイツ刑法学 学者編』                           | 成文堂  | 昭和五三年 |
| 編『犯罪と被害者 第三巻』                            | 成文堂  | 昭和五四年 |
| 『これでもいいのかニッポン 私の少数異見』                    | 日本書籍 | 昭和五五年 |
| 編『外国刑事法文献集成2 スイス刑法雑誌』                    | 成文堂  | 昭和五六年 |
| ユルゲン・バウマン編・共監訳『西独刑法改正論争』                 | 成文堂  | 昭和五六年 |
| 『刑事政策の動き』                                | 成文堂  | 昭和五六年 |
| C・ロクシン著・監訳『刑法における責任と予防』                  | 成文堂  | 昭和五九年 |
| 共編『外国刑事法文献集成3 ドイツ全刑法雑誌』                  | 成文堂  | 昭和六一年 |
| アルトゥール・カウフマン著・監訳『法哲学と刑法学の根本問題』           | 成文堂  | 昭和六一年 |
| ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ著・共監訳『ドイツ刑法学の現代的展開』         | 成文堂  | 昭和六二年 |
| K・H・ゲッセル著 共監訳『正義・法治国家・刑法―刑法・刑事訴訟法の根本問題』  | 成文堂  | 平成二年  |
| クラウス・ティーデマン原著・共監訳『経済犯罪と経済刑法』             | 成文堂  | 平成二年  |
| 編著『法学リレーディングズ 第2版』                       | 成文堂  | 平成三年  |
| 共編『犯罪学』                                  | 青林書院 | 平成七年  |
| G・カイザー、H・クーリー、H・J・アルブレヒト編・共訳『犯罪被害者と刑事司法』 | 成文堂  | 平成七年  |

成文堂 平成八年

成文堂 平成一〇年

## ラートブルフ「法のブレビエ」〈紹介と批評〉

法学研究二八卷四号 昭和三〇年

ラートブルフ刑法草案及理由書（共訳）〈資料〉

法学研究二八卷八号 昭和三〇年

死刑廃止の歴史Ⅰ・Ⅱ―西ドイツ連邦共和国を中心として〔資料〕

法学研究二九卷一〇・一一号 昭和三十一年

ドイツ語圏各国大学における刑事法学関係研究者総覧〔資料〕

法学研究三一卷八号 昭和三十三年

不真正不作為犯と西独刑法改正草案Ⅰ・Ⅱ

法学研究三三卷一・三号 昭和三五年

## 不作為による共犯——その序論的考察

法学研究三三卷二號 昭和三五五年

開かれた構成要件と法義務のメルクマール

法学研究三三卷一一号 昭和三五年

開かれた構成要件と法義務のメルクマールⅡ・Ⅲ・Ⅳ

法学研究三四卷一〇、一二号 昭和三十六年

西獨刑法に關する資料—政府刊行物、著書、雜誌論文目錄〔資料〕

法学研究三五卷 三號  
昭和三十七年

スウェーデンにおける非行少年問題とその対策——少年刑務所を中心として

法学研究三五卷 八号 昭和三十七年

スーパーマーケットに関する法律上の諸問題——西ドイツの判例、学説を中心として

22

原子力に関する犯罪とその危険構成要件―スイスの立法例を中心として〔資料〕

法学研究三六卷 三号 昭和三八年

死刑廃止論の立場

法学研究三七卷 一号 昭和三十九年

死刑の存廃に関する資料〔資料〕

法学研究三七卷 一号 昭和三十九年

アルトウール・カウフマン「現代の法哲学的状況について」〈翻訳・資料〉

法学研究三七卷 五号 昭和三十九年

被害者学の成立過程

西ドイツ刑法学の現状—刑法学者の業績を系譜学的にみて〈資料〉

法学研究三八卷八号 昭和四〇年  
法学研究三八卷八号 昭和四〇年

スウェーデンにおける新児童福祉法—一九六〇年法律第九七号「児童及び少年の公的保護に関する法律」の翻訳

(共著、共訳)〈資料〉

法学研究三八卷一〇号 昭和四〇年

西ドイツ刑法学の現状(追録Ⅰ)〈資料〉

法学研究四〇卷三三三号 昭和四二年

少年拘禁(Jugendarrest)について—その法的性格を中心として

法学研究四〇卷六六号 昭和四二年

ハンス・ゲッピンガー「テュービンゲンにおける統合科学的犯罪学研究—方法論的問題と経験」〈翻訳・資料〉

法学研究四〇卷一二二二号 昭和四二年

少年拘禁の種類(共著)

法学研究四一巻二二二号 昭和四三年

ラートブルフの刑法論Ⅰ・Ⅱ

法学研究四一巻八・九号 昭和四三年

スイスにおける信頼の原則

法学研究四二巻二二二号 昭和四四年

精神障害者に対する刑事処分について—社会治療処分再説

法学研究四三巻三三三号 昭和四五年

少年審判補助機関の成立過程—序論的考察

法学研究四三巻五五五号 昭和四五年

学問としての行刑学—その体系化の試みと問題点

法学研究四四巻三三三号 昭和四六年

被害者学は社会学に何を期待するか

法学研究四五巻二二二号 昭和四七年

西ドイツ刑法学の現状追録Ⅱ〈1・2〉

法学研究四五巻九・一〇号 昭和四七年

女性と犯罪〈資料〉

法学研究四六巻七七号 昭和四八年

西ドイツ刑事法学の研究体制—付オーストリアおよびドイツ語圏スイスの状況〈資料〉

法学研究四七巻三三三号 昭和四九年

一九七四年オーストリア新刑法典と墮胎罪規定について〈資料〉

法学研究四七巻一〇一〇号 昭和四九年

西ドイツの裁判官研究について—西ドイツ法社会学の現状に関する一つのメモ

法学研究四八巻四四四号 昭和五〇年

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅲ) 〈資料〉

日数罰金制の意義と現実—西ドイツの新刑法典を中心にして

社会内処遇の原型—少年処遇の先駆者としての J・H・ウィヒュルン

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅳ) 〈資料〉

西ドイツにおける被害者調査—特に、フライブルク調査を中心として 〈資料〉

レイベリング・アプローチの新展開—西ドイツにおける「企業内司法」研究を手がかりとして

刑法学研究の基礎—一九世紀ドイツ行刑学の論文集成を終えて

オーストリア犯罪学の現状—ラベリング論を中心として

オーストリア刑事法学の一断片 追録Ⅰ・Ⅱ 〈資料〉

刑事法研究のための基礎資料—欧米主要刑事法学者関係の記事 (法哲学者・刑法理論家を含む) 〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅴ) 〈資料〉

スイスの犯罪学

被害者学ビブリオグラフィ—ドイツ語文献 (共編) 〈資料〉

被害者学ビブリオグラフィ—英語文献 (1~3) (共編) 〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅵ) 〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅶ) (共著) 〈資料〉

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅷ) (共著) 〈資料〉

被害者の法的地位—西ドイツの動向を中心として

経済犯罪について—西ドイツ連邦刑事警察局の資料を中心として

法学研究四八卷 六号 昭和五〇年

法学研究四九卷 一号 昭和五一年

法学研究五〇卷 一号 昭和五二年

法学研究五〇卷 五号 昭和五二年

法学研究五〇卷 二一 号 昭和五二年

法学研究五〇卷 一二号 昭和五二年

法学研究五一卷 五号 昭和五三年

法学研究五二卷 四号 昭和五四年

法学研究五二卷 四・五号 昭和五四年

法学研究五三卷 八号 昭和五五年

法学研究五三卷 一〇号 昭和五五年

法学研究五三卷 一二号 昭和五五年

法学研究五五卷 三・五・六号 昭和五七年

法学研究五五卷 五・七号 昭和五七年

法学研究五五卷 一 号 昭和五七年

法学研究五七卷 一二号 昭和五九年

法学研究五九卷 八号 昭和六一年

法学研究五九卷 一二号 昭和六一年

法学研究六〇卷 二 号 昭和六二年

ナチス犯罪の追及と西ドイツ刑事司法―特に、ナチス犯罪追及センターの活動とナチス犯罪者の外泊に関する許諾の問題を中心にして  
法学研究六一巻二号 昭和六三年

オーストリアにおける外国人労働者の諸問題―特に、治安に及ぼす影響を中心として

法学研究六二巻一二号 平成元年

資金の洗浄（マネー・ロンダリング）と金融業者の責任―スイス刑法三〇五条の三を中心として

法学研究六三巻二号 平成二年

慶應法学の第二世紀

法学研究六五巻一号 平成四年

フォルカー・クライ著「警察が人質犯罪に対応する場合の性的問題―警察に対する検察官の指揮命令権・人質救出のための意図的射殺」〈共訳・資料〉  
法学研究六六巻二号 平成五年

フォルカー・クライ著「不正な麻薬取引その他の犯罪の形態の対策に関する法律案（組織犯罪対策法案）における収益の剥奪―資産刑・拡大収奪―および資金の洗浄に関する規定の批判的検討」〈共訳・資料〉

法学研究六六巻一〇号 平成五年

ハインツ・ミュラー・ディーツ「グスタフ・ラートブルフの目からみた行刑」〈共訳〉

法学研究六八巻三号 平成七年

ゴルトダンマー刑法雑誌 著者名目録（1～4）〈共編〉〈資料〉

法学研究六八巻三～六号 平成七年

日本における最近の更生緊急保護の動向について

法学研究六九巻一号 平成八年

ドイツ刑法学の現状（追録Ⅷ）（1・2）〈資料〉

法学研究六九巻一〇・一一号 平成八年

ドイツ刑法学の現状（追録Ⅷ）（3・4）〈資料〉

法学研究七〇巻三・四号 平成九年

ドイツ刑法学の現状（追録Ⅸ）（5）〈資料〉

法学研究七〇巻五号 平成九年

ドイツ刑法学の現状（追完Ⅰ）〈共編〉〈資料〉

法学研究七一巻二号 平成一〇年

ドイツ刑法学の現状（追完Ⅱ）〈共編〉〈資料〉 法学研究七二巻二二号 平成一一年

法概念としての責任〈資料・共訳〉

法学研究七四卷一〇号 平成一三年

ドイツ刑法学の現状 (追完Ⅲ) Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (3. Ergänzung):

Die neuere Strafrechtswissenschaftler (共編)〈資料〉

法学研究七六卷八号 平成一五年

雑誌 ドイツ刑法 (一九三四—一九四四年)〔総目次〕(共編)〈資料〉

法学研究七六卷一〇号 平成一五年

ドイツ語圏諸国における組織犯罪・資金洗浄関係文献 (二〇〇四年三月一日現在)〈資料〉

法学研究七七卷四号 平成一六年

法学部史の一断面—シュテルンベルクとラートブルフ

法学研究七八卷一号 平成一七年

## 主要論文

人工受精に関する刑法上の諸問題

小池隆一博士還暦記念論文集『比較法と私法の諸問題』 昭和三四年

ドイツ刑法学会の動向

『人工受精の諸問題』 昭和三五年

いわゆる責任説について

綜合法学三二号 昭和三六年

麻酔分権と刑事裁判

警察学論集一五卷四号 昭和三七年

開かれた構成要件

綜合法学四二号 昭和三七年

社会的行為論—学説史的にみて

綜合法学五三号 昭和三七年

人工受精と姦通罪—イタリアの判例・学説から

綜合法学六一号 昭和三八年

イタリアにおける共犯論—伊刑法一一〇条を中心として

齊藤金作博士還暦祝賀『現代の共犯理論』 昭和三九年

ドイツの交通チケット制について

ジュリスト三一五号 昭和四〇年

西独における年長少年法制的問題点

家庭裁判月報一七卷五号 昭和四〇年

ドイツ刑法学会の群像 I・II・III・IV・V

法律のひろば一八卷四・七・一二号 昭和四〇年

ジュリスト三四二号 昭和四一年

ジュリスト三四五号 昭和四一年

ジュリスト三五三号 昭和四一年

日沖憲郎博士還暦祝賀『過失犯1』 昭和四十一年

家庭裁判月報一八卷三號 昭和四一年

として

家庭裁判月報 一八卷 六号 昭和四一年

一九六五年スウェーデン新刑法典における「制裁」について  
判例タイムズ一八巻五号 昭和四二年

一九六六年西ドイツ刑法改正対案の刑事政策的規定について  
判例タイムズ一八卷九号 昭和四二年

西ドイツにおける刑法改正対案

ジュリスト三七二号 昭和四二年

交通反則通告制度をめぐる  
法律時報三九卷四号  
昭和四二年

少年法制の歴史の展開

家庭裁判月報一九卷五号 昭和四二年

少年法改正論争の問題点―改正構想の批判的考察  
犯罪学雑誌三三巻四号 昭和四二年

「見せ金」をめぐる法律上の諸問題（2）——刑法上の考察  
判例タイムズ一九卷六号 昭和四三年

西独刑法改正草案対案について  
法律時報四〇卷八号  
昭和四三年

再び西独刑法改正草案対案について  
法律時報四〇卷二二号  
昭和四三年

『矯正論集』 昭和四三年

社会治療施設について——一九六五年西ドイツ刑法改正草案対案とデンマークの法制を中心として

佐伯千仞博士還曆祝賀『犯罪と刑罰（下）』昭和四三年

わが国における被害者特性の実施的研究の現状と受刑者による被害調査の必要性 (1) (2)

「保安処分」の比較法的検討

罰金刑の現代的課題

企業秘密の保護に関する外国の立法例

名誉毀損罪に関する新判例への一考察

死刑廃止の社会的条件——西ドイツとイタリアの場合を中心として

少年法改正要綱の概括的批判

少年犯罪の世界的傾向と少年法改正問題

交通反則通告制度と少年交通事件処理について（上・中・下）

刑事政策家としてのフロイデントール（1）（2）——未完

少年法改正をめぐる論争点

オーストリアにおける信頼の原則——判例の分析

西ドイツにおける猥褻表現物処罰の動向——判例の分析を中心として

性的表現の自由化について——西ドイツの場合

イタリア刑法と人工受精——学説・判例の一考察

家裁と調査官制度

最近のオーストリア刑事交通判例にあらわれた「信頼の原則」

わが国における被害者学研究の現状——性犯罪研究の成果を中心として

騒擾罪に関する一考察——大須事件、メーデー事件判決を中心として

少年審判補助機関の成立過程 序論的考察

少年法改正

刑政七九卷四・六号 昭和四三年

法律時報四一巻二一號 昭和四四年

研修二五〇号 昭和四四年

ジュリスト四二八号 昭和四四年

法律のひろば二二巻九号 昭和四四年

法律時報四二巻六号 昭和四五年

法律時報四二巻一三三號 昭和四五年

ケース研究一二一號 昭和四五年

判例タイムズ二一巻四・五・八号 昭和四五年

判例時報八・九号 昭和四五年

ジュリスト四五〇号 昭和四五年

植松博士還暦祝賀『刑法と科学 法律編』 昭和四六年

ジュリスト四七四号 昭和四六年

研修二七六号 昭和四六年

峯村光郎教授還暦記念『法哲学と社会の理論』 昭和四六年

ケース研究一二六号 昭和四六年

法曹時報二三巻九号 昭和四六年

犯罪と非行一〇号 昭和四六年

判例タイムズ二二巻一三三號 昭和四六年

家庭裁判月報二三巻一〇号 昭和四六年

ジュリスト四九七号 昭和四七年

|                                    |                      |       |
|------------------------------------|----------------------|-------|
| 騒擾罪に関する一考察―大須事件、メーデー事件判決を中心として（下）  | 判例タイムズ二六九号           | 昭和四七年 |
| ドイツ少年法制の展開過程―フロイデンタールの寄与を中心として     | 家庭裁判月報二四卷七号          | 昭和四七年 |
| 少年法制に関する比較法的検討                     | ケース研究一三一号            | 昭和四七年 |
| わが国の被害者研究の現状と将来                    | 『犯罪と被害者 第二巻』         | 昭和四七年 |
| 少年法改正要綱の概括的批判                      | 『少年法改正』              | 昭和四七年 |
| 少年法改正の前提条件                         | 判例タイムズ二四卷五号          | 昭和四八年 |
| メーテン事件控訴審判決をめぐって                   | 判例タイムズ二四卷七号          | 昭和四八年 |
| スイス少年刑法の改正について                     | 家庭裁判月報二五卷五号          | 昭和四八年 |
| 被害者学の意義と現状                         | 法学教室 一号              | 昭和四八年 |
| ドイツ ドイツ少年法制の展開過程―フロイデンタールの寄与を中心として |                      |       |
| スイス スイス少年刑法の改正について                 | 外国少年法の動向（最高裁判所事務総局編） | 昭和四八年 |
| 少年法改正の前提条件（改編）                     | ケース研究一三九号            | 昭和四八年 |
| 誤報の被害者                             | ジュリスト五七〇号            | 昭和四九年 |
| 被害者補償制度の比較法的検討―ヨーロッパ大陸諸国           | ジュリスト五七五号            | 昭和四九年 |
| 改正刑法草案の「刑罰論」について                   | 法律時報四六卷六号            | 昭和四九年 |
| 西ドイツ行刑法代案                          | 刑政八五卷 三号             | 昭和四九年 |
| 刑事立法と世論調査の動向―内閣広報室の調査結果をみて（共著）     | 法学セミナー二四四号           | 昭和五〇年 |
| 刑法改正の背景と「草案」の思想的背景                 | 労働判例二一四号             | 昭和五〇年 |
| 軽微な財産犯罪の非犯罪化について                   | 研修三二〇号               | 昭和五〇年 |
| 西欧諸国における犯罪者と非行少年の処遇の多様化について        | 刑政八六卷 四号             | 昭和五〇年 |
| 西ドイツ連邦憲法裁判所の墮胎罪規定違憲判決について          | ジュリスト五八七号            | 昭和五〇年 |

フォトコピーと文書偽造罪 (上)

外部からみた刑務所

西ドイツの新行刑法について

罰金刑再論—西ドイツの新刑法総則における日数罰金制の運用を中心として

被害者学の立場からみた犯罪被害者補償制度

フォトコピーと文書偽造罪 (中) (下)

監獄法改正の課題と問題点

犯罪学の新動向と比較犯罪学

西ドイツにおける被害者研究の現状

西ドイツにおける少年法制改正の動向

被害者学入門 (1) 19

西ドイツにおける犯罪の状況

処遇困難者の社会復帰

公衆参加の第一歩としての施設見学

わが国の矯正の現実と情報の国際化

法改正とプレッシャーグループ

刑事政策と情勢の国際化

刑法一七五条にいう「販売の目的」の解釈—ポルノ書籍・凶画の国外販売目的をめぐって

ジュリスト六五九号 昭和五三年

西ドイツにおける刑事立法の動向—その社会的変化と法制度の対応

研修三五七号 昭和五三年

被害者学入門 (10) 21

警察公論三三卷一—一二号 昭和五三年

判例タイムズ三二三号 昭和五〇年

刑政八六卷一二号 昭和五〇年

法律時報四八卷七号 昭和五一年

研修三四二号 昭和五一年

警察学論集二九卷六号 昭和五一年

判例タイムズ三二七・三三五号 昭和五一年

自由と正義二七卷九号 昭和五一年

罪と罰一五卷一号 昭和五二年

小川太郎博士古稀祝賀『刑事政策の現代的課題』 昭和五二年

平場安治博士還暦祝賀『現代の刑事法学 (下)』 昭和五二年

警察公論三二卷四—一二号 昭和五二年

罪と罰一五卷二号 昭和五三年

罪と罰一五卷三号 昭和五三年

罪と罰一五卷四号 昭和五三年

罪と罰一六卷一号 昭和五三年

刑政八九卷三号 昭和五三年

刑政八九卷一号 昭和五三年

|                                  |                        |          |       |
|----------------------------------|------------------------|----------|-------|
| 矯正の近代化と表現の自由                     |                        | 刑政九〇巻一 号 | 昭和五四年 |
| オーストリアの犯罪学                       |                        | 刑政九〇巻五 号 | 昭和五四年 |
| 被勾留者の信書の制限                       |                        | 刑政九〇巻九 号 | 昭和五四年 |
| 西ドイツ刑事法事情 (1) (2) (5) (8)        | 判例タイムズ三七一・三七三・三八一・三八八号 |          | 昭和五四年 |
| 現代社会における少年法の展望 (少年法―その立場と裁判所の研究) | 別冊判例タイムズ六号             |          | 昭和五四年 |
| 刑事法内外の動き (1) (7)                 | 法学セミナー二三巻五、七―一、一三号     |          | 昭和五四年 |
| 矯正施設の移転問題に寄せて                    | 罪と罰一六巻二 号              |          | 昭和五四年 |
| 銀行強盗事件に寄せて                       | 罪と罰一六巻三 号              |          | 昭和五四年 |
| 暴力団対策に寄せて                        | 罪と罰一六巻四 号              |          | 昭和五四年 |
| 少年法改正の理想と現実                      | 家庭裁判月報三一巻五 号           |          | 昭和五四年 |
| 被害者学入門 (22 (30)                  | 警察公論三四巻一―九号            |          | 昭和五四年 |
| 比較刑事法の研究方法について                   | 研修三六七号                 |          | 昭和五四年 |
| 刑事政策の将来の動向                       | 犯罪と非行四〇号               |          | 昭和五四年 |
| 少年犯罪の犯罪社会学的背景                    | 犯罪社会学研究四 号             |          | 昭和五四年 |
| 金融機関に対する強盗事件の比較犯罪学的研究            | 捜査研究二八巻五 号             |          | 昭和五四年 |
| 刑事法内外の動き (8) (18)                | 法学セミナー二四巻一―二 号         |          | 昭和五五年 |
| 西ドイツ刑事法事情 (12) (13)              | 判例タイムズ四一七・四一九号         |          | 昭和五五年 |
| 宗教教誨について                         | 罪と罰一七巻四 号              |          | 昭和五五年 |
| 日独犯罪の現状を比較すれば                    | 刑政九一卷一 号               |          | 昭和五五年 |
| 実証的な刑事政策研究の必要性                   | 刑政九一卷五 号               |          | 昭和五五年 |
| スイスの行刑                           | 刑政九一卷九 号               |          | 昭和五五年 |

スイス刑法学研究的基礎

研修三八五号 昭和五五年

西ドイツの立法と判例に現われた外泊制——通常の外泊制を中心として

法曹時報三二卷八号 昭和五五年

西ドイツの刑事法事情 (14) (15)

判例タイムズ四二六・四二七号 昭和五六年

刑事法内外の動き (19) (25)

法学セミナー二五卷一、六、一一号 昭和五六年

未必拘禁の諸問題

法学セミナー二五卷一〇号 昭和五六年

「処分反対論」の検討

刑政九二卷一 号 昭和五六年

これからの矯正

刑政九二卷六 号 昭和五六年

コンピュータ犯罪への備え

刑政九二卷九 号 昭和五六年

被害者の救済

罪と罰一八卷二 号 昭和五六年

スイスの少年非行の状況

罪と罰一八卷三 号 昭和五六年

治療処分の必要性

罪と罰一八卷四 号 昭和五六年

西ドイツにおける少年犯罪者に対する司法的処遇

罪と罰一八卷四 号 昭和五六年

少年非行の動向と社会の対応

罪と罰一九卷一 号 昭和五六年

比較刑法研究のための基礎作業

井上正治還暦祝賀『刑事法学の諸相(上)』 昭和五六年

刑事治療処分(保安処分)の意義とそのあるべき姿——西欧の動向をふまえて 捜査研究三〇卷一〇号 昭和五六年

西欧におけるいわゆる保安処分の現実——スイス・オーストリア・西ドイツを中心として 研修三九七号 昭和五六年

更生保護と被害者

更生保護三二卷三 号 昭和五六年

オーストリアの犯罪情勢

罪と罰一九卷二 号 昭和五七年

東独の犯罪動向

罪と罰一九卷三 号 昭和五七年

韓国の矯正の事情

刑政九三卷七 号 昭和五七年

西欧の動向からみた治療処分の必要性——反対論の批判的検討

研修四〇六号 昭和五七年

受刑者処遇制度（特集 刑事施設法案について）

刑法学の新しい傾向

治療処分の歴史と現代的意義

刑事政策と試行錯誤

行状監督について「西ドイツ」

西ドイツとバイエルン州の犯罪の動向

オーストリアの犯罪学、その後

スイスの犯罪学研究グループ

「治療処分」をめぐる二・三の問題

行状監督をめぐる二・三の問題―特に保安処分と関連して

西ドイツの「処分執行法」をめぐる二・三の問題―執行の緩和と帰休制を中心として

法曹時報三五卷 六号

昭和五八年

いわゆる保安処分の最近の動向―西ドイツ・スイス・オーストリアを中心として

『慶應義塾創立一二五年記念論文集法学部法律学関係』

昭和五八年

自由刑に代わるもの

罪と罰二二卷 三号

昭和五九年

犯罪被害者の人権

罪と罰二二卷 四号

昭和五九年

オーストリアの少年非行の動向と少年法改正案

罪と罰二二卷 一号

昭和五九年

オーストリアの犯罪と刑事政策の動き

刑政九五卷 五号

昭和五九年

刑事政策における矯正と保護

刑政九五卷 六号

昭和五九年

青少年非行の動向と刑事政策的対応―スイスと西ドイツの状況を中心に

『団藤重光博士古稀祝賀論文集（3）』

昭和五九年

法律のひろば三五卷 八号 昭和五七年  
法学研究（愛知学院大学）二六卷 一号 昭和五七年

判例タイムズ四五四号 昭和五七年

罪と罰二〇卷 三号 昭和五八年

罪と罰二〇卷 四号 昭和五八年

罪と罰二一卷 一号 昭和五八年

刑政九四卷 五号 昭和五八年

刑政九四卷 一号 昭和五八年

研修四一八号 昭和五八年

研修四二六号 昭和五八年

矯正と保護の現状と展望―処遇思想の動きと関連して

刑事手続における被害者の地位

犯罪統計をめぐる二・三の問題

わが国における仮釈放制度の意義と問題点―沿革を考え併せて

被害者学事始め〈1～5〉

犯罪者処遇と被害者の視点

最近の西ドイツにおける犯罪の動向

西独の保護観察の実態調査について

アジアの少年非行と対比したわが国の少年非行

青少年犯罪の現状と原因

ナチス犯罪の追及四十年

韓国の女性犯罪

被害者学事始め〈6～17〉

時の法令一二七一・七四・七七・八〇・八二・八四・八六・八八・九〇・九二・九四・九六号

犯罪学の最近の動向

被害者学からみた交通事故

伝統的犯罪の被害者と現代的犯罪の被害者

西ドイツ刑事政策の一断面

高齢化社会と刑事政策

スウェーデン刑事政策管見

人口の変動と刑事政策の戦略

犯罪と非行六〇号 昭和五九年

判例タイムズ五三八号 昭和五九年

研修四三六号 昭和五九年

法律のひろば三七卷二号 昭和五九年

時の法令一二五七、六〇、六三、六六、六九号 昭和六〇年

罪と罰二二卷二号 昭和六〇年

罪と罰二二卷三号 昭和六〇年

罪と罰二二卷四号 昭和六〇年

研修四四八号 昭和六〇年

家庭裁判月報三七卷一〇号 昭和六〇年

世界四八〇号 昭和六〇年

罪と罰二三卷三号 昭和六一年

研修四六〇号 昭和六一年

刑法雑誌二七卷一号 昭和六一年

法律のひろば三九卷三号 昭和六一年

罪と罰二四卷二号 昭和六二年

罪と罰二四卷三号 昭和六二年

罪と罰二四卷四号 昭和六二年

罪と罰二五卷一号 昭和六二年

犯罪被害と被害者特性「西ドイツ」

法律のひろば四〇巻 一号 昭和六二年

アジアの少年非行―わが国の非行少年像と対比して

青年心理六五号 昭和六二年

国際化と刑事政策

法律時報五九巻一〇号 昭和六二年

最近の犯罪・非行理論

刑政九八巻一〇号 昭和六二年

犯罪被害者の法的地位について―西ドイツの一九八六年改正法を中心として

研修四七三三号 昭和六二年

被害者化とその法学

犯罪と非行七三三号 昭和六二年

被害者学事始め〈18〜28〉

時の法令一二九八・一三〇二・〇四・〇六・〇八・一〇・一二・一六・一八・二〇号 昭和六二年

欧米、殊に西独の薬物犯罪の現状

罪と罰二五巻 三三三号 昭和六三年

被害者学事始め〈29〜40〉

時の法令一三二二・二四・二六・二八・一三三〇・三二・三四・三六・三八・四〇・四二・四四号 昭和六三年

19世紀ドイツ刑法学研究 序説

名城法学三七別冊号（西山富夫教授還暦記念論文集） 昭和六三年

無期自由刑受刑者に対する移行緩和、特に外泊について―西ドイツの判例と学説を中心として

『矯正協会創立百周年記念論文集第二巻』 昭和六三年

若年者人口の変動と青少年保護政策の対応―西ドイツにおける動きを中心として

家庭裁判月報四〇巻五号 昭和六三年

オーストリアの「保安処分」について―その現況と手続の実際を中心として（上）

法曹時報四〇巻 一号 昭和六三年

西ドイツ刑事法の変遷と展望

ジュリスト九一九号 昭和六三年

社会の複雑化と被害者

法律のひろば四一巻 七号 昭和六三年

「安楽死事件」と西ドイツの刑事司法―ナチス犯罪追及と過去の清算

世界五二二号 昭和六三年

刑事政策の歴史的展開と矯正の発展

累犯者問題と我が国刑事政策の今後の展望

恩赦制度再考

社会内処遇の未来像

最近における少年法制改正の動向—西ドイツ、オーストリア、スイスについて

刑事政策演習講座 1 11

刑事法学の常識・非常識 1 9

時の法令一三四六・四八・五〇・五二・五四・五八・六二・六六・六八号

台湾・フィリピンの刑事政策事情

刑事政策情報の国際的共有

オーストリアの外国人労働者と治安問題

「昭和の刑事政策」について思うこと

少年法改正の新展開—オーストリア、西ドイツ、スイスにおける最近の動向

『慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集法律学科編』

スイスの経済刑法の動き

少年法制の最近の動き

東西ドイツの統合と刑事法

篤志面接委員制度の原点

刑事法学の常識・非常識 10 17

刑事政策演習講座 12 21

死刑制度を考える（特集・死刑制度存廃問題を考える—永山事件差戻し上告審判決を契機として）

刑政一〇〇巻一号 平成元年

法律のひろば四二巻一号 平成元年

法律のひろば四二巻四号 平成元年

更生保護四〇巻一号 平成元年

研修四八九号 平成元年

警察学論集四二巻一—一〇・一二号 平成元年

罪と罰二六巻三号 平成元年

罪と罰二六巻四号 平成元年

罪と罰二七巻一号 平成元年

罪と罰二七巻一号 平成元年

罪と罰二七巻一号 平成元年

罪と罰二七巻二号 平成二年

罪と罰二七巻三号 平成二年

罪と罰二七巻四号 平成二年

罪と罰二八巻一号 平成二年

時の法令一三七〇・七二・七六・七八・八〇・八二・八六・八八号 平成二年

警察学論集四三巻二—五・七—一二号 平成二年

|                                                  |                   |      |
|--------------------------------------------------|-------------------|------|
| スイスにおける経済犯罪規制の新展開——内部情報不正使用と金銭の洗浄の刑法的規制について      | 法律のひろば四三巻八号       | 平成二年 |
| 改変テレホンカードと変造有価証券交付罪の成否 上・中・下（共著）                 | 法学政治学論究 五号        | 平成二年 |
| 刑事法学の常識・非常識 18～24 時の法令一三九六・九八・一四・〇六・〇八・一〇・一二・一四号 | 判例評論三七六～三七八号      | 平成二年 |
| 刑事政策演習講座 22～30                                   | 警察学論集四四巻二～五・七～一四号 | 平成三年 |
| オーストリアの罰金刑                                       | 罪と罰二八巻三三号         | 平成三年 |
| 経済犯罪の動きと刑事法による対応                                 | 罪と罰二八巻四四号         | 平成三年 |
| 日本の刑事政策の当面する課題                                   | 罪と罰二九巻一号          | 平成三年 |
| 諸外国の少年非行（特集・少年非行と非行少年の処遇）                        | 法律のひろば四四巻一号       | 平成三年 |
| 社会内処遇の展望                                         | 更生保護四二巻二二号        | 平成三年 |
| ドイツの統一とその法律問題——司法制度と刑事法を中心として                    | 刑政一〇二巻六号          | 平成三年 |
| 犯罪被害者の心理（特集・法律家のための心理学）                          | 自由と正義四二巻二二号       | 平成三年 |
| 犯罪の動向と外国人入国者対策                                   | 罪と罰二九巻二二号         | 平成四年 |
| ドイツ統一と刑事政策                                       | 罪と罰二九巻三三三号        | 平成四年 |
| スイス刑法の50年                                        | 罪と罰二九巻四四号         | 平成四年 |
| ラートブルフの刑法改正論                                     | 罪と罰三〇巻一号          | 平成四年 |
| ソ連・東欧社会の混乱とドイツ                                   | 時の法令一四一八号         | 平成四年 |
| ドイツ統一と司法制度の再編成                                   | 時の法令一四二四号         | 平成四年 |
| ドイツにおける刑事政策の新しい動き——「損害回復」に関する「対案」〈1〉〈2〉          | 時の法令一四三〇・三二二号     | 平成四年 |

|                                         |                                |      |
|-----------------------------------------|--------------------------------|------|
| 旧東独の法学部の再建と司法制度の再構成―補遺(1)               | 時の法令一四三八号                      | 平成四年 |
| 無期受刑者と社会復帰(特集・女子と犯罪)                    | 更生保護四三卷八号                      | 平成四年 |
| 刑事法学の常識・非常識25～30                        | 時の法令一四四六・四八・五二・五六・六〇・六四号       | 平成五年 |
| 更生保護の最近の動き                              | 罪と罰三〇卷二号                       | 平成五年 |
| 社会福祉と犯罪                                 | 罪と罰三一卷一号                       | 平成五年 |
| ドイツの社会的混乱と少年法制                          | 刑政一〇四卷一号                       | 平成五年 |
| 統一後の旧東ドイツと少年非行                          | 刑政一〇四卷七号                       | 平成五年 |
| 刑法理論と被害者学                               | 福田平・大塚仁博士古稀祝賀『刑事法学の諸相(下)』      | 平成五年 |
| 刑事法学の常識・非常識31～38                        | 時の法令一四六六・六八・七〇・七六・七八・八〇・八四・八八号 | 平成六年 |
| 統一後のドイツにおける犯罪の動向                        | 罪と罰三一卷二号                       | 平成六年 |
| 旧東独法学部の刑事法研究体制                          | 罪と罰三一卷三号                       | 平成六年 |
| 権力者の犯罪                                  | 刑政一〇五卷一号                       | 平成六年 |
| 旧東独諸州の行刑改革について                          | 刑政一〇五卷七号                       | 平成六年 |
| 被拘禁者の人権と法執行機関関係者の研修・教育、特に警察官と刑務官の研修について | 刑政一〇五卷一号                       | 平成六年 |
| 犯罪者処遇思想の変遷と我が国の刑事政策の現状                  | 犯罪と非行一〇〇号                      | 平成六年 |
| 国境を開放したヨーロッパにおける組織犯罪                    | 罪と罰三二卷二号                       | 平成七年 |
| アラブ治安研究センター                             | 罪と罰三二卷三号                       | 平成七年 |
| オーストリアの更生保護制度について                       | 犯罪と非行一〇四号                      | 平成七年 |
| 刑事法学の常識・非常識39・40・41                     | 時の法令一四九四・一五〇六・一〇号              | 平成七年 |
| 日墺刑事法コロキウム                              | 罪と罰三二卷四号                       | 平成七年 |

|                                                                   |                         |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| オーストリアの更生保護制度について                                                 |                         |
| 更生緊急保護の最近の動向と今後の展望                                                |                         |
| 更生保護制度の新展開                                                        |                         |
| 少年法の歩みと今後の展望（特集 戦後五〇年の刑事政策）                                       |                         |
| ドイツ統一後の犯罪の動向                                                      |                         |
| 日本の刑事政策とベツカリア・メダル                                                 |                         |
| 少年非行の現状と対策（特別寄稿）                                                  |                         |
| 被害者学入門 1～8                                                        | 宮崎産業経営大学法学論集八巻一・二号 平成八年 |
| ドイツにおける若者宗教・若者セクトをめぐる諸問題                                          | 捜査研究四五巻五～一二号 平成八年       |
| スイスの被害者保護                                                         | 研修五七五号 平成八年             |
| 『白い環』の近況                                                          | 罪と罰三三巻 三号 平成八年          |
| 刑事法学の常識・非常識 42～47                                                 | 罪と罰三三巻 四号 平成八年          |
| マネーロンダリング（ドイツ語圏刑法の対応）——スイス・ドイツ・オーストリアの法制と日本（特集マネーロンダリングに関するフォーラム） | 警察学論集四九巻一〇号 平成八年        |
| 被害者学入門 9～19                                                       | 捜査研究四六巻一～二・四～一二号 平成九年   |
| 処分の執行と社会の安全                                                       | 罪と罰三四巻 二号 平成九年          |
| 被害者への支援活動に寄せて（特集 被害者対策の進展）                                        | 警察学論集五〇巻 四号 平成九年        |
| 刑事法学の常識・非常識 48・49                                                 | 時の法令一五四三・四七号 平成九年       |
| 犯罪学研究センターとその業績                                                    | 罪と罰三四巻 三号 平成九年          |
| マネーロンダリング—ドイツ語圏刑法の対応                                              | スイス・ドイツ・オーストリアの法制と日本    |
| 中山研一先生古稀祝賀論文集（二）『経済と刑法』                                           | 平成九年                    |

比較の中の日本の刑事法

施設内処遇の問題点の国際比較

ドイツにおけるセクトの問題—犯罪学・刑事法学の立場から

ドイツ刑事政策の基礎データ

犯罪被害者への支援と刑事政策

被害者学入門 20～24

組織犯罪対策の今日的課題〈基調講演〉(特集 組織犯罪対策に関するフォーラム)

第九回国際被害者学シンポジウムアムステルダム大会をめぐって—回顧と展望(特集 第九回国際被害者学シン

ポジウム)

社会変革と犯罪「ドイツ」

地域に根を下ろした更生保護(特集 更生保護施設と地域社会)

被害者支援のためのヨーロッパ・フォーラム

ドイツにおける性犯罪対策法

組織ぐるみの犯罪

我が国の刑事司法と被害者の地位—諸外国における犯罪被害者に対する諸施策との対比で

国際犯罪学会 過去・現在・未来

ドイツとオーストリアの証人保護(1)～(3)

犯罪被害者救済の現状と最近の動向(特集 犯罪被害者救済を考える)

コルプス・ユリス 欧州共同体の財産的利益の刑法上の保護(1)

研修五九〇号 平成九年

罪と罰三四卷四号 平成九年

刑政一〇八卷一〇号 平成九年

罪と罰三五卷一号 平成九年

『死刑—存置と廃止の出会い』 平成九年

捜査研究四七卷一～五号 平成一〇年

警察学論集五一卷二号 平成一〇年

罪と罰三五卷二号 平成一〇年

罪と罰三五卷二・三号 平成一〇年

更生保護四九卷三号 平成一〇年

罪と罰三五卷四号 平成一〇年

捜査研究四七卷一〇号 平成一〇年

罪と罰三六卷一号 平成一〇年

産大法学三二卷二・三号 平成一〇年

罪と罰三六卷二号 平成一一年

捜査研究四八卷一～三号 平成一一年

法律のひろば五二卷五号 平成一一年

捜査研究四八卷六号 平成一一年

更生保護五〇年に思う

犯罪被害者に対する援助―その沿革と現状について

刑事政策時評 組織犯罪対策の現状を批判する

被害者サーヴィスのためのヨーロッパ・フォーラムについて（特集 被害者支援の動向と課題）

被害者の請求権確保に関する法律について「ドイツ」

少年法の理念と現実（特集 少年法をめぐる動向）

平成一一年版犯罪白書について（特集 平成一一年版犯罪白書）

比較刑事政策の原点

犯罪被害者支援の近況…主としてドイツ語圏諸国の現状について

刑事法制の新展開―刑事法制の現状と課題（特集 刑事法制の新展開）

組織犯罪対策法の背景事情（第八回警察政策フォーラム「組織犯罪対策の国際的動向―ヨーロッパにおける取組み」）

スイス刑法における賄賂罪の全面改正について

組織犯罪対策法の背景事情

被害者学の軌跡と展望（「日本被害者学会」一〇周年記念シンポジウム）

ドイツ被害者支援活動グループについて

被害者支援への長い道程（特集 犯罪被害者対策）

少年法改正論議に寄せて

ドイツ被害者支援活動グループ（ado）について

危険な性犯罪者の処遇―ドイツの場合

罪と罰三六卷 三号 平成一一年

研修六一三号 平成一一年

罪と罰三六卷 四号 平成一一年

警察学論集五二卷八号 平成一一年

捜査研究四八卷 九号 平成一一年

現代刑事法一卷 五号 平成一一年

罪と罰三七卷 一号 平成一一年

罪と罰三七卷 一号 平成一一年

刑政一二八七号 平成一一年

法律のひろば五二卷一二号 平成一一年

警察政策研究 四号 平成一二年

罪と罰三七卷 二号 平成一二年

警察学論集五三卷 三号 平成一二年

被害者学研究一〇号 平成一二年

罪と罰三七卷 三号 平成一二年

時の動き四四卷 六号 平成一二年

罪と罰三七卷 四号 平成一二年

産大法學三四卷 三号 平成一二年

罪と罰三八卷 一号 平成一二年

21世紀を迎える刑事政策の現実と将来像 (特集 21世紀の刑事政策—その課題と展望)

スイスにおける外国人犯罪

ドイツの刑事政策の動向 (その1) (その2)

ヨーロッパにおける刑事政策の新動向—犯罪予防と警備業を中心として

ドイツの治安報告書

アルトゥール・カウフマン教授を送る—人と業績

ドイツ犯罪予防フォーラム (DFK) にこころ

重大犯罪と精神障害

更生保護施設における社会復帰処遇について (特集 更生保護施設)

弁護報酬の受領と、資金の洗浄 (Geldwäsche)

今日の刑事政策と保護司への期待 (特集 これからの保護司)

ヨーロッパ共同体の新資金洗浄基準について

国際組織犯罪の動向とその対応

警察政策学会—回顧と展望 (『警察政策』学会設立五周年記念号) — (警察政策学会の回顧と展望)

危険な犯罪者に対する処分の実態

各国比較から読み取るべきもの—特に、ヨーロッパ人権裁判所への訴願制度を中心として (特集1 名古屋刑務所

事件と受刑者の人権)

更生保護と犯罪被害者 (特集 更生保護における犯罪被害者)

21世紀における刑事規制のゆくえ

中谷瑾子先生傘寿祝賀『21世紀における刑事規制のゆくえ』 平成一五年

犯罪と非行一二六号 平成一二年

罪と罰三八卷二号 平成一三年

罪と罰三八卷三・四号 平成一三年

捜査研究五〇卷七号 平成一三年

罪と罰三九卷一号 平成一三年

現代刑事法四卷一号 平成一四年

捜査研究五一卷三号 平成一四年

罪と罰三九卷三号 平成一四年

犯罪と非行一三二号 平成一四年

捜査研究五一卷九号 平成一四年

更生保護五三卷一〇号 平成一四年

罪と罰四〇卷一号 平成一四年

警察政策五卷一号 平成一五年

警察政策五卷一号 平成一五年

罪と罰四〇卷三号 平成一五年

法学セミナー四八卷七号 平成一五年

更生保護と犯罪予防三七卷一号 平成一五年

21世紀における刑事規制のゆくえ』 平成一五年

バーゼル刑法大注釈書

オーストリアの予防処分の実態

カウフマンの刑法学と法哲学（第三二回シンポジウム 全体テーマ アルトゥール・カウフマンの刑法哲学）

外国人との共生（コミュニティと安全）

オーストリアのダイバージョンについて

被害者学・被害者支援―その過去・現在、そして将来展望

ラートブルフ全著作集の完成

〔現代刑事法〕 創刊5周年特別寄稿 刑事法と法制度の比較

クリミスコプ（CRIMSCOPE）について

警察法施行50年にちなんで―年代記的スケッチ（特集 警察法施行五〇年）

スイスの没収された財産的価値の配分に関する連邦法律について

比較の中の行刑改革―二十一世紀の行刑のあるべき姿とは

ロースクールと刑事政策

少子高齢化社会日本の社会政策と刑事政策（来日外国人犯罪対策 警察政策フォーラム 日独犯罪 減少対策フォーラム―来日外国人犯罪を考える）

外国の刑事立法の動向 事後的保安監置に関する新立法動向について

ドイツの行刑における社会治療

少子高齢化社会日本の社会政策と刑事政策（日独犯罪減少対策フォーラム 来日外国人犯罪を考える）

警察学論集五八卷一―号 平成一七年

捜査研究五二卷一―号 平成一五年

罪と罰四一巻一―号 平成一五年

ノモス一四号 平成一五年

警察政策 六号 平成一六年

捜査研究五三巻三―号 平成一六年

被害者学研究一四号 平成一六年

ジュリスト一二六五号 平成一六年

現代刑事法六巻五―号 平成一六年

罪と罰四一巻三―号 平成一六年

警察学論集五七巻七―号 平成一六年

捜査研究五三巻九―号 平成一六年

犯罪と非行一四二号 平成一六年

罪と罰四二巻一―号 平成一六年

警察政策研究九号 平成一七年

現代刑事法 七巻一―号 平成一七年

罪と罰四二巻三―号 平成一七年

警察学論集五八卷一―号 平成一七年